

地域情報（県別）

【熊本】整形外科や眼科と連携し、肝炎ウイルスをPCR検査で見つけ出す-田中靖人・熊本大学病院肝疾患センター長に聞く ◆Vol.2

2021年2月26日 (金)配信 m3.com地域版

熊本大学病院の肝疾患センターでは「熊本肝炎・脂肪肝プロジェクト」と銘打った、5年間にわたる肝疾患対策が動き出している。FIB-4 index計算サイトの開発・運用に加え、整形外科や眼科での肝炎ウイルス検査を行うことも検討している。当プロジェクトに関して、熊本大学大学院生命科学研究部生体機能病態学分野消化器内科学講座教授であり、熊本大学病院肝疾患センター長も兼任する田中靖人氏に詳しく話を聞いた。（2021年1月29日オンラインインタビュー、計3回連載の2回目）

▼第1回はこちら

▼第3回はこちら（近日公開）

——熊本大学病院肝疾患センターで開発されたFIB-4 index計算サイトが、今後広く使われるために、どのようなPRを実施・予定しているのでしょうか。

FIB-4 index計算サイトに直接飛べるQRコードを記載したリーフレットを作成し、さまざまな経路で配布してもらっています。リーフレットはこれまでに1000部以上刷っていますし、PDFの形で配ってもあります。新聞にも2回取り上げていただきました。その結果、2021年1月は6000件弱のアクセスがありました。

本当は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行がなければ、講演会などを実施して啓発したかったのですが、仕方ないですね。今後は地元のテレビ番組出演の機会などを捉えて、積極的にPRしていきたいと考えているところです。

2020年新たに始動!
熊本脂肪肝プロジェクト
(脂肪肝早期発見・治療サポートプロジェクト)

**もう迷わない!
手おくれになる前に。**

この「熊本脂肪肝プロジェクト」は
肝臓の線維化(硬さ)を評価する「FIB-4 index」を用いて
病状が進行する前に専門医を受診してもらう体制を確立しています。
脂肪肝が原因で発生する脂肪肝・肝硬変・肝がんにならないため
には「**脂肪肝**」の段階で放置しないで治すことが大切です。

10年後
10~20%
脂肪肝 → 脂肪肝 → 肝硬変 → 肝がん

症状
なし ↓ だるさ ↓ ぐくみ ↓ 黄変 ↓ 嚔り

熊本大学病院 肝疾患センター
TEL 096-372-1371

FIB-4 index 計算サイト
この画面で
実際の数値を入力

FIB-4 indexの説明

結果が光る

危険域 判定の方は専門医受診期間で精密検査を受けましょう
詳しくは、熊本脂肪肝プロジェクトのホームページをご覧ください。
※電話またはFAX送信後ご自身から申込み可です。

肝疾患専門医受診予約申込書
(FAX 送信欄)

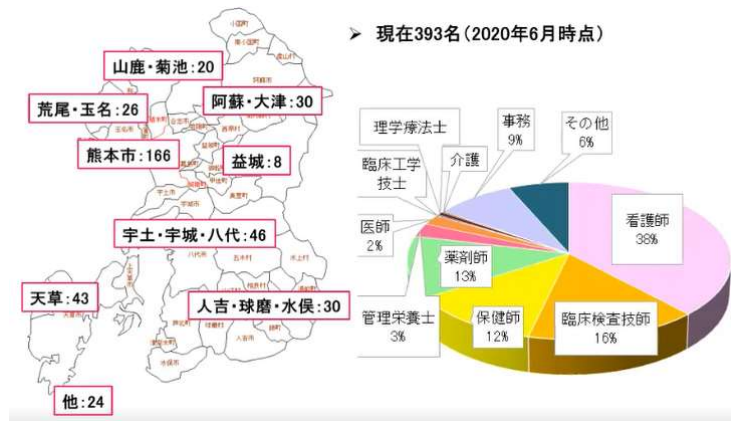
姓 名	〒	〒	〒
住 所	〒	〒	〒
電話番号	〒	〒	〒
病 名	〒	〒	〒
年齢	〒	〒	〒
性別	〒	〒	〒
職業	〒	〒	〒
入院日	〒	〒	〒
手術日	〒	〒	〒
備考	〒	〒	〒

熊本大学病院 肝疾患センター
FAX 096-372-1371

プロジェクトの啓発リーフレット（田中氏提供）

——このリーフレットはどこで配布しているのでしょうか。

まずは熊本県の「肝疾患コーディネーター」経由です。熊本県では400人ほどが養成されており、熊本市を筆頭に、各地域でほぼ均等に分散する形で活躍しておられます。当リーフレットを活用して今回のプロジェクトの啓発をしていただくことも含め、さまざまな機会を捉えて市民に肝疾患の啓発や個別のアドバイスなどをお願いしています。また、肝疾患コーディネーターへの情報共有として、E-MailやLINEを活用しています。



熊本市の肝疾患コーディネーターの人数と配置 (田中氏提供)

また、FIB-4 index計算サイトに興味を持ちそうな人が集まっている場所の一つとして、薬局があります。そこで薬剤師会の協力を得て、薬局で当リーフレットを配っていただいております。

さらに、健康意識の高い人が集まる場所の一つとして、今後予定されているバレーボールの大会会場にブースを設置し、リーフレットの配布や肝疾患の相談会などを実施したいと考えています。

——FIB-4 indexの計算に健診データが必要なので、健診結果にリーフレットを同封するという方法も良いかもしれませんね。

はい。まずは協会けんぽと組んで配布したいと思っています。行政との連携体制も取れていまして、熊本市にも当プロジェクトにご協力いただく予定です。実は当講座で准教授をされていた先生を、熊本市の健康対策課に派遣しておりまして、大学と市の連携がより円滑に進む体制となっています。

また、熊本県が熊本大学病院を肝疾患診療連携拠点病院に指定しているという関係もあって、県とはもともと連携が取れています。肝疾患に関わる多職種や患者会の代表者などが集まる県の肝疾患連携協議会でも当プロジェクトの話をして、興味を持ってもらえました。

——医師や看護師などの職能団体との連携はいかがでしょうか。

医師会とはもともと連携していますが、さらなる情報提供・連携の余地が残されていると感じています。看護協会との連携はこれから検討したいと思います。

ちなみに、歯科医師会には以前からB型肝炎やC型肝炎の既往歴があるか問診するようお願いしています。歯科処置中に感染する可能性がありますからね。肝炎ウイルス対策という意味では、次のターゲットは整形外科や眼科だと思っています。



田中靖人氏 (田中氏提供)

——整形外科や眼科で肝炎ウイルス対策とは、どうしてでしょうか。

肝炎ウイルスに感染している人は高齢者が多く、これらの診療科には高齢者がよく受診するからです。熊本県の高齢者の2%ほどはHCVに感染しているのではないかと推定されます。整形外科や眼科は効率的に肝炎ウイルス感染のスクリーニングをしていく場所として適していると考えています。

私が整形外科や眼科をターゲットに考えている理由のもう一つは、これらの診療科が最も内科から遠い立ち位置にあると思うからです。肝炎ウイルス感染者を見つけるとともに、整形外科医や眼科医への肝疾患の啓発も一緒に行えるのではないかと期待しています。

——整形外科や眼科に行った患者さんが、突然「肝炎ウイルス検査のために採血する」と言われたら、戸惑ってしまいそうです。

肝炎ウイルス検査は術前検査の一部として実施することを考えています。術前検査のために採取した血液を用いて肝炎ウイルスの検査をするので、患者さんにとっては特に負担が増えることはないと考えています。

しかも、HCVのスクリーニングについては、従来の抗体検査ではなく、PCR検査を用いることを計画しています。

——わざわざPCR検査を使う理由は何でしょうか。

COVID-19 の報道などを通じて、一般の方々に「抗体検査＝過去の感染＝もう治っている」という印象が付いてしまったことを懸念しての発想です。HCV抗体は中和抗体ではなく、抗体検査だけで持続感染者なのか、治癒した人なのかは区別できません。仮に「抗体検査が陽性なら、もうウイルスは体内にいない」というイメージに基づく誤解がある場合は、必要な医療につながりにくいのですよね。

逆に、PCR検査であれば「陽性ならば、体内にウイルスがいる」ということをイメージしやすい状況となっています。COVID-19 流行の以前と以後では、一般人が検査に持つ印象が大きく変わってしまっているのです。

——一般人の検査の捉え方の変化に応じて検査法を選ぶというのは、目から鱗です。

もちろん保険適用はありませんので、研究目的での実施となります。整形外科や眼科での術前検査のタイミングで同意を取り、開示の許可が得られた人には検査結果をお伝えすることもできると思います。

PCR検査は10人分くらいを一度にかけるプール形式を採用したいと考えています。あわよくば行政のサポートが欲しいところですが、まずは研究目的でやってみて先生方の反応を確かめさせていただきたいです。

この記事を読んでくださっている整形外科や眼科の先生方、もし興味を持たれましたらご連絡いただけましたら幸いです。

◆田中 靖人（たなか・やすひと）氏

1991年に名古屋市立大学医学部を卒業。同大学病院にて臨床研修を受け、名古屋第二赤十字病院での勤務を経て、1997年より名古屋市立大学大学院医学研究科に入学。1999年より米国立保健研究所（NIH）に留学し、2002年に帰国。その後は名古屋市立大学の講師、准教授となり、2008年より同大学病院肝疾患センター副センター長を兼任。2009年より同大学院病態医科学講座教授に就任した。2020年6月より現職（熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学講座教授／熊本大学病院肝疾患センター長／消化器内科科長／光学医療診療部部長）。

【取材・文＝伝わるメディカル 田中留奈】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

